

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価員 佐々木 小次郎

1 教育委員会

守谷市教育委員会が、新教育委員会制度をいち早く取り入れ、新教育長のもと、着実に成果を上げていることに敬意を表します。この成果は、新しい制度を有意義なものに、また、守谷市の教育が更なる発展を図ろうとする市長や教育委員会の努力の賜物であると考えます。さて、教育委員会の制度が変わって新教育長の職務権限が拡大したことに伴い、教育委員のあり方や教育委員会議のあり方も変わってくるべきものと思われます。その面から、教育委員会議の内容を見てみると、承認や委嘱等の案件が多く制度が変わったことに伴う教育委員会に対するチェック機能の役割が少ないように思います。現在は非常に成果が上がっていると思いますが、今後、新しい制度の検証を重要視し、制度疲労の起こらないよう望みます。そして、そのことが更なる成果を生むことと考えます。

教育委員が、会議だけでなく学校訪問、各種研修会、各種行事や大会等多くの場面に積極的に参加されていることは、大変素晴らしいことと考えます。

2 学校教育・指導室事業

(1) 教室環境の整備・充実

教育環境の整備については、校舎・体育館の耐震補強工事をいち早く完了していることは、素晴らしいことと高く評価します。また、その他にも市内小中学校のトイレの整備を終了し、さらには、老朽化に伴う施設の整備を視野に入れるなど、児童生徒を取り巻く教育環境の整備に努めていることは、現在の財政状況の厳しい折、教育委員会の努力と市長部局の協力の賜物と考えます。

また、教育内容・教育方法に対応した多様な学習環境に対応するために、他市に先駆けて、電子黒板の普通教室への配備や3・6人当たり1台以上のタブレットを導入するなど、最先端の学習環境を整備し、それに伴う人的措置にも配慮していることは、高く評価します。

それに関連して、過去、学校は多くの先進的な設備を導入してきました。しかし、その多くは期待を裏切るものでした。それは、ハードに伴うソフト面での充実が十分でなかったからと考えます。授業に役立つソフトの導入と更新、授業者の技術の向上等々、特に中心になって使用する教員の技術の向上が最も大切と考えます。

更に、今後、校務の情報化（校務支援システムの導入）を進めていくとのこと。校務の情報化は、現代社会においては必須のものと考えられていますが、学校の性質上、個人情報膨大にあり、情報漏洩などの問題も後を絶たないのが現状です。また、資料の持ち出しができず、教職員の残業が増加するという相反する結果に至ったという話をよく聞きますので、十分システム等を考慮して、プラスになる導入を期待します。

通学路の安全点検については、最近、利根川河川工事による幹線道路のトラックの増加、若者による暴走や高齢者の交通事故の増加など、厳しい状況が増すばかりで、より具体的で効果のある交通安全指導の充実を希望します。

(2) 学校教育プラン

① ステップアッププラン (確かな学力の育成)

学校教育にとって、児童生徒一人ひとりに確かな学力を身に付けさせるということは極めて大切なことです。それは、思考力・判断力・表現力を身につけさせ、達成感や自己存在感、また自己有用感を育て、そして、それが「生きる力」の重要な要素になるからです。その観点から、守谷市の教育をみると、「守谷市の学校教育」、「学びのプラン」、「保幼小中一貫教育」によって、基礎である土台を作り、その土台の上に「家庭学習のてびき」や人的配置、環境整備という基本の柱を作り、そして、それが各学校の実践を支えているということは、広い視野に立った教育を行おうとしていることであり、高く評価できると考えます。各学校の取組を見ても、教育委員会の取組が着実に実践へとつながっていることが伺えます。

具体的な点では、少人数加配教員、学習支援ティーチャー、理科専任員、社会人ＴＴ、介助補助員などの充実した配置。また、先進的なＩＣＴの取組、これらの積極的な取組が守谷市の児童生徒の学力の高さを支えているものと思います。これらを実施するに当たり、教育委員会の予算獲得を含め、その努力に敬意を表します。

要望としては、県費負担教職員の研修です。昔から、「教育は人なり」と言うとおり、県の教育予算の９０パーセント以上は人件費です。そして、子どもたちを最前線で指導し育てるのは教職員です。この教職員を育てることは、子どもたちを育てるために最も重要です。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」にあるように、市町村は県費負担教職員の研修を行うことができるので、全ての面での教職員の研修を更に充実させることを望みます。また、そのため、指導主事や教員から選抜する教科の指導員等を充実させ、学校訪問等も工夫し、教員の指導力の向上を望みます。

また、小中学校の「家庭学習のてびき」は、児童生徒のみならず保護者にとっても有意義なものと考えます。

② ハートフォーヒューマンプラン (豊かな心をはぐくむ教育の推進)

「教育の目的」の一つは、人格の完成を目指すことです。そのためには、「知・徳・体」のバランスの取れた教育をすることが大切です。教育委員会が進める、豊かな心をはぐくむ教育に力を入れることは、現代の「規範意識の欠如」、「道徳性の低下」、「いじめ問題」、「不登校問題」等々の今日的課題の克服のためにも必用不可欠です。具体的にみると、まず、「基本的行動様式の徹底と基本的生活習慣の確立」についてですが、最近、外国から多くの観光客が来て、「日本は安全だ。」、「日本人は親切だ。」、「日本では落とし物をしてでも届く。」との言葉をよく耳にします。これは、古くから日本人の行動様式や思いやり、そしてものの価値観が育んできたものです。教育委員会では、その点を重要視し、現代ではそれが低下していると考え、「あいさつ」を基盤と捉えるとともに、そこを出発点として「道徳教育の充実」、「守谷しぐさ」の作成と指導というように、心豊かな児童生徒を育てることに重点を置いていることを高く評価します。また、各学校でもこのことが浸透し、多くの実践がみられることも評価します。ただ「あいさつ」は運動だけでは一過性なものとなりやすいので、発達段階に応じた内面的な指導を続けることも重要だと考えます。

「いじめ問題」については、全国的に大きな問題となっていますが、教育委員会においても重要視し、「守谷市いじめ実態調査」を毎月行い、積極的ないじめ問題の認知、援助指導、また、関係機関等の連携による早期解決に努めていることは高く評価します。また、各学校でもこの課題について、児童生徒を中心に積極的に取り組んでいることも評価します。「いじめ問題」は、全国的に見ても「認知」、「実態把握」、「撲滅」等の言葉をよく耳にしますが、これらのことも当然大事ですが、思いやりの心を育んだり、相手を尊重したり、理不尽には黙っていない正義感を育てるといった、児童生徒一人ひとりの心を育てることが最も重要であるという点から、各学校での生徒指導や学級経営を工夫し、実践するよう指導を望みます。

平成28年度から新しい取組として「守谷市総合教育支援センター」が設立され、心の相談員事業・教育相談員事業・適応指導教室事業が統合され、より機動性のある柔軟性のある支援が実施できるようになったことは、とても意義あることと高く評価します。今後の運営の充実に期待します。QUTテストを予算化しての全校実施は、高く評価します。人間関係を検査で把握し、それをうまく生かしていくことは重要です。ただ、結果をどう読み取り、どう生かすかは教師にかかっています。教師の力量を向上させる研修を望みます。

③ ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力を育む教育の推進）

守谷市の児童生徒の体力については、茨城県が全国的に上位を占めるということで、県平均より多少低くても、かなりの体力があるということは事実であろうと考えますが、安心せず積極的な体力向上を目指してほしいと考えます。特に、平成28年度の中学生在がそれまで県平均を上回っていたのに、県平均より劣ったことが心配されます。その分析をし、歯止めを掛ける方策を希望します。

健康教育や食育については、基本的な行動様式や豊かな心を育む教育とも関連しており、横断的な指導が必要と考えます。教育委員会や各学校でもそれを念頭に置いた多くの実践を実施しているところを評価します。また、防災教育については、防災の日に多くの保護者を巻き込んだ避難訓練の市内一斉実施、引き渡し訓練の実施等、成果がみられます。引き続きの実施と今までなかった危機管理にも気配りをお願いしたい。また、身近で重要な防災対策は「整理整頓」であることも指導を希望します。

④ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

教育委員会は、新しい時代に対応した教育の柱を国際理解教育・情報教育の推進・環境教育の推進・キャリア教育の推進の4つを中心に掲げ、将来に生きる子どもたちが、自らの力で生きる力を身に付けてほしいと考えています。いずれも、教育の今日的課題として重要なことと考えます。

国際理解教育では、英語検定取得率が非常に高く、また、年とともに向上していることは高く評価します。これは、いち早くALTを全校に導入し、「ALTとあそぼう」や「小中の連携」等いろいろな活動をし、その成果が着実に上がっているためだと考えます。教育委員会の先見性に敬意を表します。情報教育の推進では前述のように、ソフトの充実と教職員の研修が重要だと考えます。ICT支援員の配置は、とても重要ですが、教職員一人ひとりの力量向上が不可欠と考えます。

環境教育の推進では、自然体験・環境保全教育やエネルギー資源教育・身近な環境問

題に焦点を当てて進めていることはとても重要です。また、大切なのは、地区の空き缶拾いや河川敷クリーン作戦に参加していることと考えます。特別なことではなく「足下からの環境教育」精神は重要です。ゴミを拾った子どもたちは、ゴミを捨てなくなるからです。

キャリア教育は、将来の自分の生き方や職業に対するデザインを描くに当たってとても重要です。職場体験の事業所探しは、全国どの地域でも苦労しているところです。学校だけでは厳しい現状があります。新しいシステムの構築が必要でしょう。

3 給食センター事業

守谷市では6,500食に及ぶ給食を、毎日、安全に作り続け、子どもたちに届けていること、それも二献立制であることに、まず敬意を表します。最近ではアレルギー問題やO-157等の問題、また調理員の確保の問題等、課題が山積みのなか、努力されていることは高く評価します。

給食センターの建物は33年が経過しているとのこと。当然、施設・設備の老朽化による不具合により、修繕や機器の取替え等が多く発生してくると思えます。急には難しいとは思いますが、まだ使用に耐えるうちに、今後の守谷市の給食について長期ビジョンを考えるタイミングにきているのかとも考えます。市が続けるのか委託という方法はないのか、センター方式を続けるのか、自校式や近隣の学校で作る自校複合式か、弁当と給食の選択制はどうか等々。もう始めているのかかもしれませんが、検討を望みます。

4 生涯学習事業

自然観察会の実施は、守谷市民に地元を知らせ、そのことによって地元への関心を深め、そして、地元の交流を広げるという点において重要と考えます。ボランティア指導者の問題については、人材バンク同様、人材の掘り起こしに努めてほしいと思います。

各公民館の事業については、市民にとって身近な事業や講座であり、多くの人が参加していることは評価します。多くの参加が多くの交流を生むことになると思えます。

人権教育の推進については、重要な問題です。人権教育は生涯を通して学んでいかなければならない人類共通の課題です。時として子どもより大人の方が人権意識の薄い場合もあるので、この人権教育の広がりを目指します。

開かれた学校づくりの推進では、市民のスポーツ振興にとって重要なことです。飽和状態になることは良いことなのですが、新たに希望する人、既得権を主張する人の調整は非常に困難な課題だと考えます。

青少年の富士登山は、大変有意義な素晴らしい事業と考えます。多くの方々の尽力により続けられていることを高く評価します。

芸術祭は、多種多様な芸術文化活動を支える意味でも意義ある発表の場です。多くの人材の発掘の場でもあります。PR活動の充実を希望します。

スポーツについては、近年、守谷ハーフマラソンが内外に周知され参加者が増加していることは喜ばしいことです。しかし、増加すれば増加するほど、新たな問題が噴出します。教育委員会や関係者の努力は、容易に想像できます。今後、更なる知恵と努

力を期待するほかありません。

図書館事業では、建築22年を経過したとのことですが、非常に使いやすく、老朽化を感じることはありません。細かく見るとそうとも言えないのですが、設計もよく、使用した感覚ではとても気に入った図書館です。資料の購入費も他市より充実しており、素晴らしいと考えます。TRCの運営になっての弊害は、利用した場では特に感じません。立派な図書館なので、もっと利用者が増加してほしいと思います。図書館を利用している世代層が固定化してきているように感じます。ある程度は仕方のないことですが、今後一層のPRを希望します。

〈総括〉

教育委員会全体の評価について

教育委員会の施策・事業を点検してみると、学校教育・社会教育の両方の分野に、きめ細かな施策と事業が展開されていることを高く評価します。施策・事業を展開する予算についても、市長部局との信頼関係に立ち、教育長はじめ事務局の努力が伺えます。個別の評価や点検結果については、既に述べたとおりです。特に、学校教育では、発達段階を見通した幅広い見地から、多くの事業が展開されています。また、将来を見通した、先進的な取組も多くみられます。子どもたちを積極的に育てていこうとする教育委員会の姿勢を高く評価します。また、各学校もその意図を把握し、それぞれが独自の取組を実践していることを評価します。

図書館事業を含む生涯学習分野についても、市民と教育委員会が一体となって、事業を展開していることを評価します。今回教育委員会の平成28年度の点検・評価をしてみて、現在の施策・事業、将来をも見据えた計画、それに伴う予算措置等、適正に行われていると評価します。

国立社会保障・人口問題研究所の「2040年の日本の地域別将来推計人口」を見ると、ほとんどの市町村で人口が大幅に減少する中、守谷市は微増との結果が出ています。安定した状況が続くことを踏まえて、今後の長期ビジョンの作成を望みます。